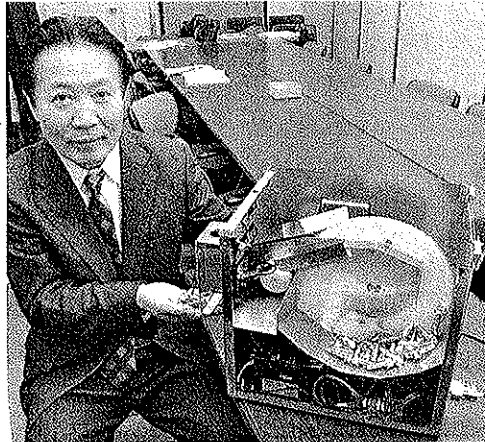


車の部品 機械が手渡し 川崎の会社 装置開発



ボルトの本数を正確に数え、作業員に供給する新装置

川崎市高津区の機械設計・製造会社「マイス」(酒井高雄社長、社員3人)が、自動車などの生産ラインで、必要な分だけのボルトを作業員に自動的に供給する装置「MINK」(仮称)を開発した。市の仲介で日

産自動車から技術供与を受け、小型で安価な製品を完成させた。

装置のサイズは約30センチ四方。中にとめてあるボルトを磁石の回転板で吸い上げ、センサーで一本ずつ正確に数えて、取り出し口に

送り出す仕組みだ。

日産では同じ生産ラインで複数の車種を製造しており、車ごとに使うボルトの種類や本数が異なる。従来は手づかみで、熟練工でも時間のロスがあったため、ボルトを自動で数える技術を開発した。

マイスは昨年7月、「市知的財産交流会」でこの技術を知り、同12月に日産と使用契約を締結。今年1月に自動供給装置として製品化した。4月から28万円(税抜き)で販売予定で、自動車会社や建築・農業機械メーカーなどに5年で1000台の出荷を目指す。酒井社長は「初の自社製品が完成し、うれしい」と話している。